



日本コミュニケーション障害学会  
Japanese Association of Communication Disorders

第45回

# 日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 45th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders

テーマ

- 臨床から理論的実証へ
- 多職種間のコミュニケーション

会期 2019年 5月11日(土)・12日(日)

会場 川崎医療福祉大学 (岡山県倉敷市)

会長 小坂 美鶴 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科

第45回

# 日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 45<sup>th</sup> Meeting of Japanese Association of Communication Disorders

会期：2019年5月11日(土)・12日(日)

会場：川崎医療福祉大学

会長：小坂 美鶴

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科

主催：日本コミュニケーション障害学会

後援：岡山県

倉敷市

岡山県教育委員会

倉敷市教育委員会

山陽新聞社

一般社団法人 岡山県理学療法士会

一般社団法人 岡山県作業療法士会

一般社団法人 岡山県言語聴覚士会



# 第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 開催にあたって

第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会

会長 小坂 美鶴

第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会開催にあたり、事務局を代表としてご挨拶申し上げます。

本学術講演会は2つのテーマをもって開催いたします。一つは、『臨床から理論的実証へ』という大きなテーマです。私たち一人ひとりが実践している臨床からたくさんのことを学んでいます。多くの会員の皆様から日ごろ実践している子どもたちや言語障害児・者へのアプローチをまとめて本学術講演会で発表していただきます。言語病理学という科学としてそれらのたくさんの実践が積み重なってエビデンスが作り出されることを期待しています。もう一つのテーマは、『多職種間のコミュニケーション』です。本学術集会在開催される川崎医療福祉大学はたくさんの医療福祉に関連する学部・学科がそろっており、医療・福祉分野で実践できる学生が毎年千人以上巣立っていっています。本テーマに沿って医学や福祉、心理、教育関連などの他職種の仕事の理解につなげていきたいと思っております。そのため、特別講演と教育講演は本学の先生方をお願いしました。特別講演は医療福祉学科の諏訪利明先生の『ASDのコミュニケーション支援—TEACCH Autism Programの視点から—』と題し、ご講演いただきます。教育講演は生理学の彦坂和雄先生の『扁桃体とコミュニケーション』、言語聴覚士の種村純先生の『成人脳損傷者における認知コミュニケーション障害の諸相』、臨床心理学科の武井祐子先生の『子供の気質的特徴とコミュニケーション—臨床との出会いから研究を通して明らかとなったこと—』といったタイトルでご講演をいただくことにしております。また、シンポジウムは多職種連携を取り上げ、1日目は『地域包括ケアにおける他職種連携』について医師やOT、ST、行政など様々な職種間のディスカッションが行われます。2日目の『乳幼児健診における多職種連携』では、岡山県の1歳半健診からの組織的な支援活動と鳥取県で行われている5歳児健診についての実践を紹介していただきます。

5月の爽やかな時期に岡山県の小京都と呼ばれている倉敷で開催される学術講演会です。第45回日本コミュニケーション障害学会の表紙には美観地区の夜の星空の写真を使わせてもらいました。ちょうどアイビーがレンガ色の建物に緑色にからまり、美しい季節になります。観光の季節でもありますので、たくさんの方のご参加を心からお待ちしております。

最後になりましたが、本学術集会の開催にあたりご協力とご支援を賜りました皆さまに、心から感謝申し上げます。

# 第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会の 開催にあたり

日本コミュニケーション障害学会  
理事長 吉畑 博代

この度、日本コミュニケーション障害学会は、第45回学術講演会を岡山県倉敷市にある川崎医療福祉大学で開催することとなりました。これまで岡山県隣の兵庫県や広島県でコミュニケーション障害学会学術講演会が開催されたことはありますが、岡山県での開催は初めてです。またコミュニケーション障害学会では、医療職や教育職、心理職、福祉職など、さまざまな職種に携わる人が会員であることが特徴ですが、昨年度に引き続き、言語聴覚士の養成課程を有する医療系大学で開催できることを大変嬉しく思っております。

倉敷市近辺は昨夏の豪雨で甚大な被害もたらされた地域です。あらためて被災された皆さまにお見舞い申し上げ、犠牲になられた方々に哀悼の意をささげたいと思います。まだ復興の途上にある地域で学術講演会を開かせていただけることは、大学の関係者の方々をはじめ、地域の皆さまのご理解とご助力があつてのことと感謝しております。

日本の未来に目を向けて、新社会でのキーワードを考えると、情報社会を象徴するクラウドサービスやAI(Artificial Intelligence)、デジタル教科書などが挙げられます。急速に情報化が進む一方で、超高齢社会での認知症や介護の問題、深刻な少子化など、地域社会をめぐるさまざまな問題については枚挙にいとまがありません。このような時代だからこそ、人と人とのコミュニケーションを大切に、人が人に関わることで、共に前に進んでいく仕事の重要性を実感いたします。

30年続いた「平成」が終わり新元号になった直後に開催される本学術講演会は、この学会の進む道を示してくれているように感じます。今回のテーマは「臨床から理論的実証へ」「多職種間のコミュニケーション」です。臨床現場で仕事をしている会員、大学や研究施設で理論や検証に従事している会員など、多くの職種の会員が集結している本学会ならではのテーマです。特別講演、教育講演やシンポジウムも充実しています。多くの方々に学術講演会に足をお運びいただき、討論にご参加いただきたく存じます。ご自身の明日からの臨床や仕事の糧にしたり、新たな気持ちで業務に向き合えるような機会となることを願っております。

本学術講演会の開催に向けて、会長の小坂美鶴先生、事務局長の川上紀子先生をはじめとする多くの関係者の皆さまが早くから準備をすすめてくださいました。ご多忙な中で時間を割いて充実したプログラムと研鑽の場を提供していただきましたことに心より御礼申し上げます。

# 交通案内

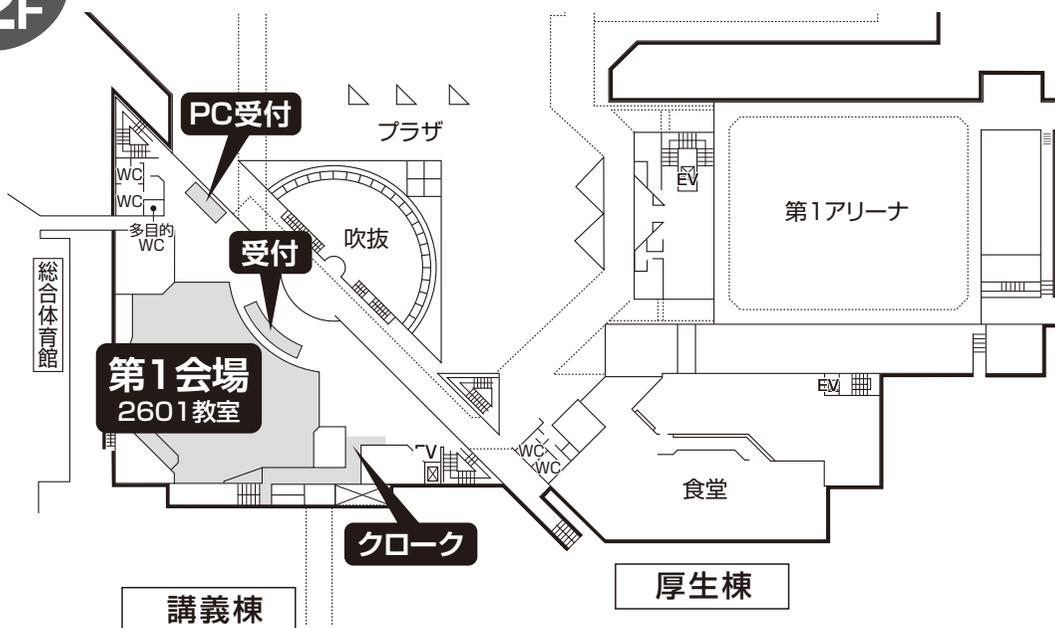


- 山陽自動車道、倉敷I.C.を降りて約10分  
料金所を出ると、すぐの信号(倉敷方面)を右折して、突き当りを左折してください。
- 瀬戸中央自動車道、早島I.C.を降りて約10分  
料金所を出ると、岡山方面と倉敷方面に分かれています。  
岡山方面から国道2号線へ合流してください。約1km先、早島中交差点を左折してください。
- 岡山空港からはJR岡山駅及びJR倉敷駅間で、それぞれリムジンバスが運行されています。  
その後、JRに乗換の上で会場までお越しください。
- 当日お越しいただく際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

# 会場案内

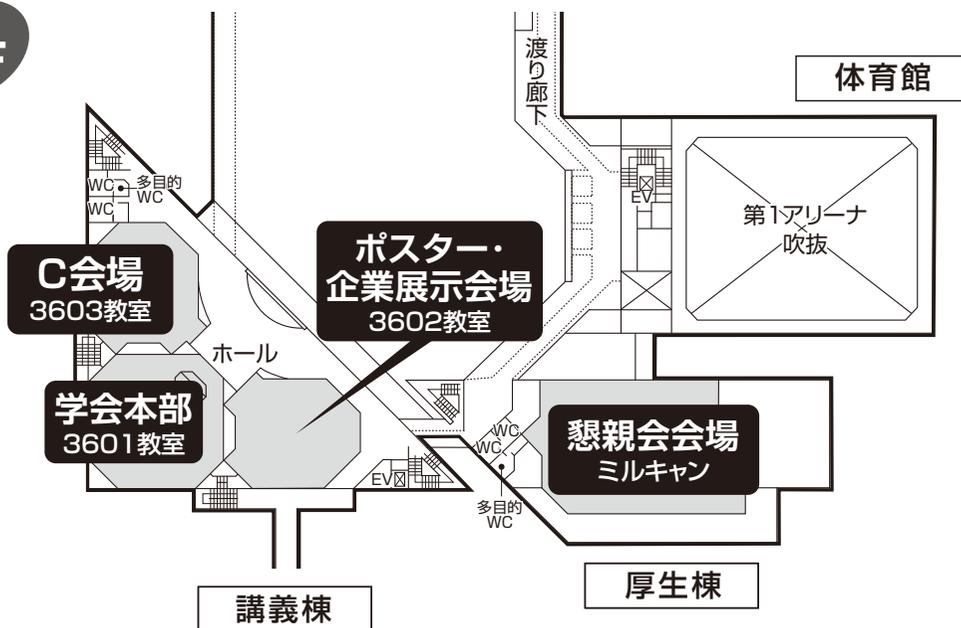
## 講義棟

2F



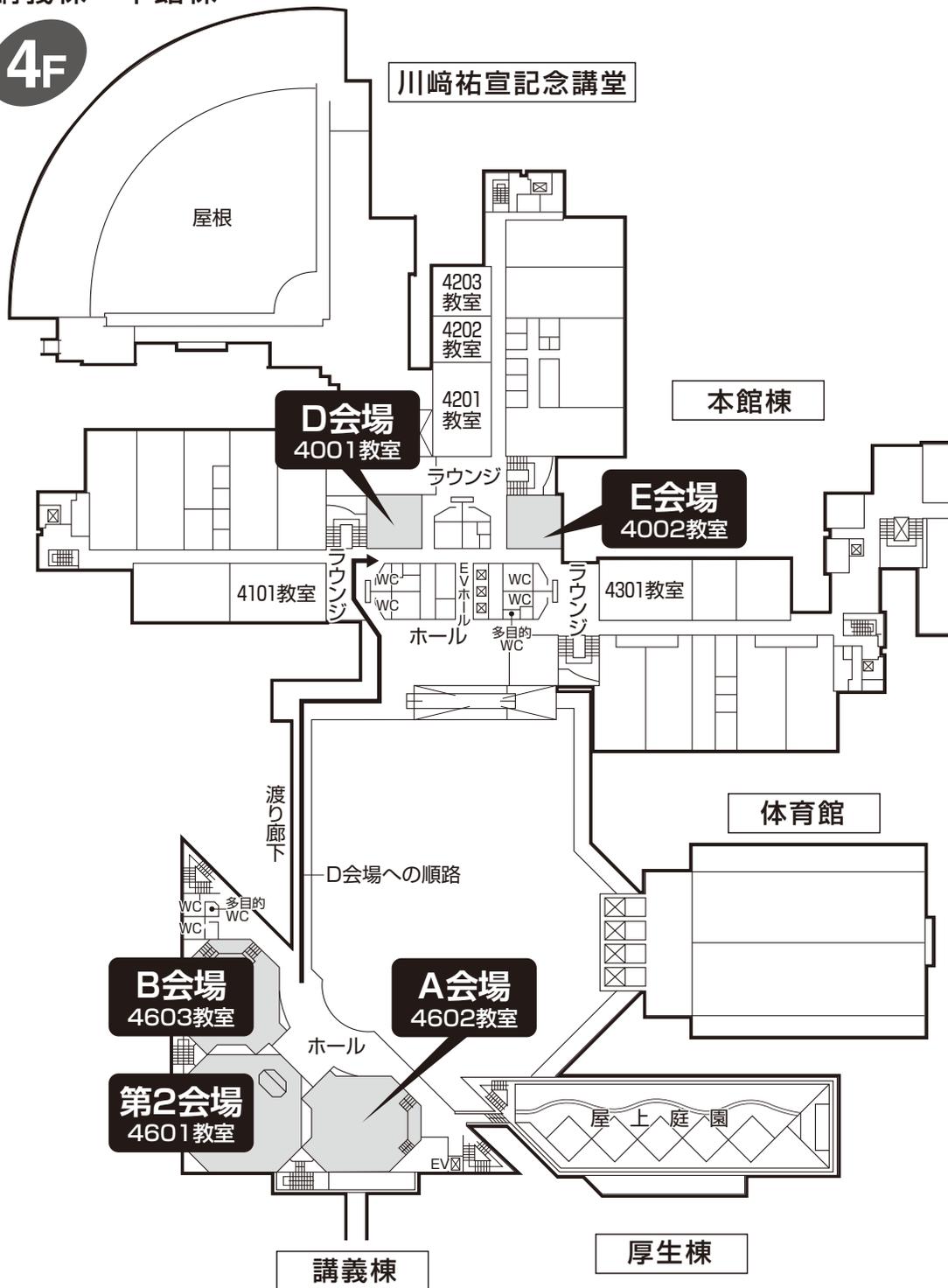
## 講義棟・厚生棟

3F



講義棟・本館棟

4F



# ご 案 内

## ■参加受付

1. 受付は5月11日(土)・12日(日)8時20分より行います。
2. 「参加受付」は、川崎医療福祉大学 講義棟2階に設けてあります。
3. 参加費は次の通りです。

	事前登録	当日受付
会 員 (特別会員含む)	9,000円	10,000円
非会員	10,000円 (予稿集が無料になります)	10,000円 (予稿集は含みません)
学 生*	3,000円 (予稿集が無料になります)	3,000円 (予稿集は含みません)

※受付にて必ず学生証を呈示してください。

4. 予稿集は、受付にて1冊1,000円で販売いたします。
5. 懇親会(懇親会は事前受付のみです。当日受付はありません。)

日 時：2019年5月11日(土) 18:00～

会 場：川崎医療福祉大学 厚生棟 3階 ミルキャン

懇親会費：5,000円

## ■進 行

### 【口頭発表】

#### 1. 座長の方へ

- 1) 開始予定の30分前までに参加受付フロア内の「講師・司会・座長受付」にて受付をお済ませください。
- 2) 開始予定の10分前には、次座長席にお着きください。
- 3) 1演題の発表は7分、質疑応答は3分です。
- 4) 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。

#### 2. 演者の方へ

##### (1) 口頭発表受付について

- 1) 川崎医療福祉大学 講義棟2階(参加受付フロア)に「PC 受付」がございます。
- 2) 「参加受付」の後、各セッション開始1時間前までに「PC 受付」をお済ませください。
- 3) 但し、1日目第2会場「吃音」のセッションで発表される方は、準備の都合上、「PC 受付」を先に済ませてから「参加受付」を行なってください。
- 4) 2日目にご発表の方も可能な限り1日目にPC 受付をお願い致します。

## (2) 発表用データについて

- 1) 口頭発表は会場設置の PC (Windows のみ) を使用していただきます。
- 2) 用意しているコンピュータの OS とアプリケーションは以下の通りです。  
OS : Windows10 プレゼンテーションソフト : MicrosoftPowerPoint2016  
音声・動画ソフトは Windows Media Player が使用できます。  
音声・動画を含む発表をされる方は、データに加え念の為ご自身の PC もお持ちください。  
事前にご自身の PC にて必ず動作チェックを行なってください。
- 3) 演者の方は発表データを USB メモリーに保存し、「PC 受付」へお持ちください。USB メモリーは、必ず事前にウイルスチェックを済ませてからご持参ください。  
※その他のメディアは受け付けておりません。ご注意ください。
- 4) 動画・音声等を使用される場合は、必ず「動画」「音声」として挿入してください。元のデータから「リンク」させることはトラブルの原因となりますので避けてください。
- 5) ファイルの取り間違えを防ぐために、ファイル名を [演題番号-発表者の姓] に統一させていただきます(英数字は半角)。  
例) 演題番号 10-07、川福太郎の場合は [10-07川福] とします。
- 6) 文字化けを防ぐために、下記の OS 標準フォントをお使いください。  
日本語 : MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝  
英語 : Arial, Arial Black, Century, Century Gothic, Times New Roman
- 7) 音声記号のフォントの多くは「特殊記号」ですので、PC が異なると文字化けの可能性が高くなります。お手数ですが音声記号は画像として貼り付けてください。
- 8) 発表データは作成に使用した PC 以外の PC にて動作確認をしてからお持ちください。

## (3) 動作確認について

- 1) 「PC 受付」で USB を提出される際に、受付にある PC にて動作確認を行なってください。
- 2) 発表で動画・音声を再生する場合は、必ず「PC 受付」にてその旨お知らせください。
- 3) 発表データ (Power Point) は、動作確認後に各会場の PC のデスクトップにコピーします(コピーした発表用データは、学会終了後、事務局が責任をもって破棄します)。

## (4) 口頭発表について

- 1) PC の操作は演者ご自身でお願いします。操作支援・補助が必要な場合は「PC 受付」でご相談ください。
- 2) 発表時間は 7 分、質疑応答は 3 分です。  
発表終了 1 分前と終了時に合図をいたします。終了時間を厳守してください。

## 3. 質疑応答

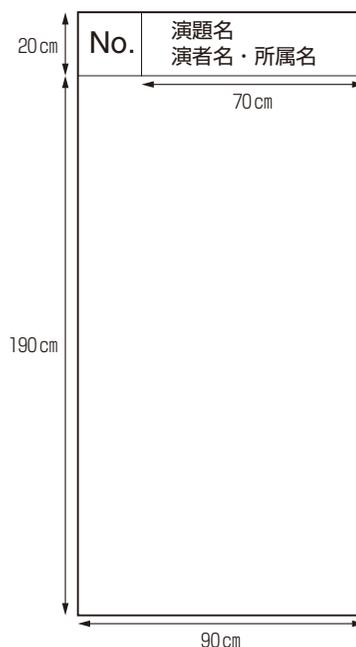
- 1) 質疑応答は 1 演題につき 3 分です。
- 2) 質疑応答は座長の指示に従ってください。
- 3) 発言者は最初に所属・氏名を述べてください。

## 【ポスター発表】

### 1. 発表者の方へ

#### (1) ポスターの掲示作業について

- ① ポスター発表の受付はございません。
- ② 発表者は指定されたポスター会場内に設置してある所定の位置(縦190cm×横90cm:1面)に貼り付けてください。
- ③ ポスターの貼り付けは、ご自身の発表日の10:00までをお願いいたします(ポスターの掲示は発表日のみです)。
- ④ 演題番号はパネルの左上に予め貼り付けてあります(20cm×20cm)。その横のスペース(縦20cm×横70cm)に演題名、演者名、および所属名を掲示してください。それ以外のスペースは、はみ出さない範囲でご自由にお使いください。



#### (2) 質疑応答について

参加者と質疑応答する機会を設けますので、発表者は指定された時間の30分間、各ポスター前に待機してください。座長はおりません。自由にディスカッションを行ってください。

#### (3) ポスター撤去作業について

- ① 撤去作業は、以下の時間内で行ってください。  
1日目(11日) 16:00～17:00  
2日目(12日) 16:00～17:00
- ② 上記時間帯に撤去されなかった場合は、事務局で廃棄いたしますのでご了承ください。

## 【学会誌用の抄録原稿】

発表者の方は、「コミュニケーション障害学」掲載用の抄録原稿を、以下の要領で提出してください。

- (1) 抄録原稿執筆要綱を学術講演会ホームページからダウンロードしていただき、手順に従って原稿を作成してください。メールで件名「抄録原稿送付(演題番号)」とし、「添付ファイル」で事務局アドレス宛(45th.meeting.of.jacd@gmail.com)にお送りください。  
締め切りは5月9日(木) 正午です。
- (2) 抄録は『コミュニケーション障害学』(2019年12月刊行予定)に掲載する予定です。

## ■お知らせ

### 1. 機器展示と休憩および昼食

- 1) 川崎医療福祉大学講義棟3階3602教室にて機器の展示を行います。
- 2) 同会場に休憩スペースも設けますので、こちらで休憩、昼食をお取りください。
- 3) 事前登録でお弁当を注文された方にはお弁当のチケットを配布いたします。お弁当との交換時間を当日受付で確認の上、チケットと交換してください。
- 4) 大学本館棟2階に売店がございますが11日(土)のみの営業の上、品物の数に限りがございますのでご了承ください。
- 5) 昼食のごみは可能な限りお持ち帰りをお願いいたします。

### 2. 懇親会

11日(土) 18:00～19:30に大学厚生棟3階ミルキャン(食堂)にて懇親会を行います。参加は事前登録となっており、会費は5,000円です。  
参加された皆さまが親睦を深める良い機会ですので、多数のご参加をお待ちしています。

### 3. お子様連れの参加者の方へ

託児室の設置はございません。ご希望に応じて岡山駅に近い保育所(一時預かり)等の情報をご提供いたします(特に割引等があるわけではありません)。事務局までメールでお問い合わせください。

### 4. 役員会、委員会

- |         |   |
|---------|---|
| 常任理事会   | 5月10日(金) 17:00～20:00<br>国際交流センター(岡山市北区奉還町2丁目2-1) 5階会議室(2) |
| 役員会     | 5月11日(土) 11:30～12:30<br>D会場(川崎医療福祉大学 本館棟4階 4001教室)        |
| 学術事業部会議 | 5月12日(日) 12:00～13:00<br>D会場(川崎医療福祉大学 本館棟4階 4001教室)        |
| 拡大編集委員会 | 5月12日(日) 12:00～13:00<br>E会場(川崎医療福祉大学 本館棟4階 4002教室)        |

### 5. 総会

日本コミュニケーション障害学会総会が開催されます。是非、ご出席ください。

日時：5月12日(日) 13:20～14:20

会場：第1会場(講義棟2階 2601教室)

### 6. その他

- (1) クロークは、第1会場(講義棟2階)横にございます。
- (2) 拾得物・遺失物、学会本部に御用の方は、「総合受付」にお越しくください。

## ■分科会

本学会では、会員の自主的な研鑽を目的として、分科会、委員会、研究助成金の付与などの活動を推進しています。今学会では、11日(土) 16:30～17:40 に以下の分科会を開催します。多くの皆様の参加をお待ちしています。

- |                                  |                    |
|----------------------------------|--------------------|
| ①言語発達障害研究分科会                     | 第2会場(講義棟4階 4601教室) |
| ②吃音および流暢性障害研究分科会                 | A会場(講義棟4階 4602教室)  |
| ③特別支援教育協働分科会                     | B会場(講義棟4階 4603教室)  |
| ④重度重複障害のある子の<br>コミュニケーションを考える分科会 | D会場(本館棟4階 4001教室)* |

※重度重複障害のある子のコミュニケーションを考える分科会主催のイベント

日 時: 5月12日(日) 10:00～14:00

場 所: 厚生棟3階ミルキャン(懇親会の会場と同じです)

## ■講習会

5月11日(土) 16:30～17:40

口蓋裂言語検査講習会

C会場(講義棟3階 3603教室)

# 日 程 表

**第1日目** 5月11日(土)

	第1会場 講義棟2階 2601教室	第2会場 講義棟4階 4601教室	ポスター・企業展示会場 講義棟3階 3602教室	
8:20	8:20～ 受付開始			
9:00	9:10～9:30 開会挨拶		9:00～10:00	9:00 ↓ 16:00  企 業 展 示
10:00	9:30～10:30 会長講演 言語障害児への早期発見早期介入と チームアプローチの重要性 小坂 美鶴	9:40～10:30 一般演題 吃音 10-05～09 座長：原 由紀	10:00 ↓ 16:00	
11:00	10:40～11:20 一般演題 訪問・地域連携(小児) 10-01～04 座長：山本 正志	10:40～11:50 教育講演 扁桃体とコミュニケーション 彦坂 和雄 司会：大井 学	ポ ス タ ー 展 示	
12:00	12:00～12:30 失語症・コミュニケーション障害 1P-01～06 吃音・音声障害 1P-07～10 12:30～13:00 自閉症スペクトラム障害 1P-11～18		12:00～13:00 ポ ス タ ー 質 疑 応 答	
13:00	13:00～14:10 教育講演 2 成人脳損傷者における 認知コミュニケーション障害の諸相 種村 純 司会：吉畑 博代	13:00～13:40 一般演題 学習言語の基礎 10-10～13 座長：石坂 郁代 13:40～14:30 一般演題 聴覚障害 10-14～18 座長：國末 和也	ポ ス タ ー 展 示	
14:00	14:40～16:20 シンポジウム 1 地域包括ケアにおける 多職種連携 司会：種村 純 シンポジスト： 阿部 泰昌、坂井 容子 安本 勝博、黒羽 真美	14:40～15:50 教育講演 3 子供の気質的特徴とコミュニケーション -臨床との出会いから研究を通して 明らかとなったこと- 武井 祐子 司会：小坂 美鶴		
15:00	16:30～17:40 分科会 言語発達障害研究分科会(第2会場) 吃音および流暢性障害研究分科会(A会場) 特別支援教育協働分科会(B会場) 重度重複障害のある子の コミュニケーションを考える分科会(D会場)			
16:00			講 習 会 口蓋裂言語検査講習会 (C会場)	
17:00				
18:00	18:00～19:30 懇 親 会 会場：厚生棟3階 ミルキャン			

**第2日目** 5月12日(日)

	第1会場 講義棟2階 2601教室	第2会場 講義棟4階 4601教室	ポスター・企業展示会 講義棟3階 3602教室	厚生棟3階 ミルキャン
8:20～	受付開始			
9:00	9:10～10:10 <b>一般演題</b> 自閉症スペクトラム障害 20-01～06 座長：藤野 博	9:10～9:40 <b>一般演題</b> 言語発達 I 20-07～09 座長：内山 千鶴子	9:00～10:00 <b>ポスター 掲示</b>	9:00 ～ 16:00 <b>企 業 展 示</b>
10:00		9:40～10:20 <b>一般演題</b> 言語発達 II 20-10～13 座長：畔上 恭彦		
11:00	10:30～11:50 <b>特別講演</b> ASDのコミュニケーション支援 - TEACCH Autism Program の視点から- 諏訪 利明 司会：小坂 美鶴	10:30～11:10 <b>一般演題</b> 高次脳機能障害 I 20-14～17 座長：吉田 敬	10:00 ～ 16:00 <b>ポ ス タ ー 展 示</b>	10:00 ～ 14:00 <b>分科会主催のイベント</b> 重度重複障害のある子のコミュニケーションを考える
12:00	11:10～11:50 <b>一般演題</b> 高次脳機能障害 II 20-18～21 座長：中村 光			
13:00		12:00～12:30 聴覚障害 2P-01～05 人工内耳 2P-06～08 12:30～13:00 言語発達障害(評価・指導) 2P-09～12 訓練・社会支援 2P-13～16	12:00～13:00 <b>ポスター 質疑応答</b>	
14:00	13:20～14:20 <b>総 会</b>		ポ ス タ ー 展 示	
15:00	14:30～16:10 <b>シンポジウム 2</b> 乳幼児健診における 多職種連携 司会：中島 英彦 シンポジスト： 間庭 英明、長谷川 友香 金田 夏美、芦崎 和恵	14:30～15:10 <b>一般演題</b> 構音・音声・摂食嚥下障害 20-22～25 座長：矢野 実郎		
16:00	16:10～ <b>閉会挨拶</b>		ポスター撤去	
17:00				

# プログラム

**会長講演** 5月11日(土) 9:30～10:30

第1会場(講義棟2階 2601教室)

## 言語障害児への早期発見早期介入とチームアプローチの重要性

小坂 美鶴 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

**特別講演** 5月12日(日) 10:30～11:50

第1会場(講義棟2階 2601教室)

司会：小坂 美鶴(川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部)

## ASDのコミュニケーション支援 —TEACCH Autism Programの視点から—

諏訪 利明 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

**教育講演1** 5月11日(土) 10:40～11:50

第2会場(講義棟4階 4601教室)

司会：大井 学(子どものこころの発達研究センター)

## 扁桃体とコミュニケーション

彦坂 和雄 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 視能療法学科

**教育講演2** 5月11日(土) 13:00～14:10

第1会場(講義棟2階 2601教室)

司会：吉畑 博代(上智大学 言語聴覚研究センター)

## 成人脳損傷者における認知コミュニケーション障害の諸相

種村 純 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

司会：小坂 美鶴(川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部)

## 子供の気質的特徴とコミュニケーション —臨床との出会いから研究を通して明らかとなったこと—

武井 祐子 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科

司会：種村 純(川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部)

## 地域包括ケアにおける多職種連携

### S1-1 医療介護連携 —倉敷地域の医療介護連携シートについて—

川崎医科大学 リハビリテーション医学 阿部 泰昌

### S1-2 市町村の介護予防の取組に求められるリハ職の役割とは

岡山県 保健福祉部 長寿社会課 坂井 容子

### S1-3 介護予防から始まる地域づくり

津山市こども保健部健康増進課 兼 環境福祉部高齢介護課 安本 勝博

### S1-4 地域リハビリテーション活動支援事業への参画と連携

学校法人国際医療福祉大学 介護老人保健施設マロニエ苑  
リハビリテーション室 黒羽 真美

司会：中島 英彦(倉敷市保健福祉局 子ども未来部子育て支援課)

## 乳幼児健診における多職種連携

### S2-1 玉野市内における乳幼児期からの支援体制について ～発達障害支援コーディネーターの役割～

たまの発達障害者支援センター 発達障害支援コーディネーター 間庭 英明

### S2-2 乳幼児健診後のフォロー体制 ～にじいろ教室におけるとりくみ～

児童発達支援事業所「すたあと」 長谷川友香

### S2-3 大山町での5歳児健診 ―5歳児健診における多職種連携―

鳥取県大山町役場 こども課 金田 夏美

### S2-4 5歳児発達相談における多職種連携

鳥取県倉吉市健康福祉部保健センター 芦崎 和恵

**分科会** 5月11日(土) 16:30～17:40

---

言語発達障害研究分科会

第2会場(講義棟4階 4601教室)

吃音および流暢性障害研究分科会

A会場(講義棟4階 4602教室)

特別支援教育協働分科会

B会場(講義棟4階 4603教室)

重度重複障害のある子の  
コミュニケーションを考える分科会

D会場(本館棟4階 4001教室)

※重度重複障害のある子のコミュニケーションを考える分科会主催の  
イベント

日 時: 5月12日(日) 10:00～14:00

場 所: 厚生棟3階ミルキャン(懇親会の会場と同じです)

**講習会** 5月11日(土) 16:30～17:40

---

口蓋裂言語検査講習会

C会場(講義棟3階 3603教室)

# 一般演題（口頭発表）

第1日目 5月11日(土)

訪問・地域連携（小児） 10:40～11:20

第1会場（講義棟2階 2601教室）

座長：山本 正志（NPO 法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク  
ことばの相談室ひなたぼっこ）

- 10-01** AACを導入してコミュニケーションが可能となった  
先天性多発性関節拘縮症の幼児について  
—訪問による実践—

あいりず訪問看護ステーション 木下 亜紀

- 10-02** 当院 ST 小児部門の拡大に向けた取り組み  
～地域の現状をふまえて～

医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院 渡部梨沙子

- 10-03** 自閉症幼児のコミュニケーションの広がりを目指して  
（動作法を中心としたかわりから）

尚綱学院大学 人間心理学科 三好 敏之

- 10-04** 地域包括ケアシステムでつながった「ちょうだい」のサイン  
～療育資源の乏しい地域での困難事例～

社会医療法人清風 日本原病院 平尾 由美

吃音 9:40～10:30

第2会場（講義棟4階 4601教室）

座長：原 由紀（北里大学 医療衛生学部）

- 10-05** 吃音のある成人の日常生活における注意バイアスと  
コミュニケーションの満足度との関連

国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 灰谷 知純

- 10-06** 発達障害を併せ持つ成人吃音者に対する支援

近畿大学医学部附属病院 久保田 功

- 10-07** 吃音者の就労での悩みや周囲の理解に影響を与える要因の検討

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 飯村 大智

**10-08** 保育士・幼稚園教諭向けの吃音パンフレットの有用性

国立障害者リハビリテーションセンター 酒井奈緒美

**10-09** 吃音に他の問題を重複する児童の実態

筑波大学 人間系 宮本 昌子

**学習言語の基礎** 13:00～13:40

**第2会場**(講義棟4階 4601教室)

座長：石坂 郁代(北里大学 医療衛生学部)

**10-10** ASD 児の semantic field の狭小化と偏りについて

川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究所 感覚矯正学専攻 中田 薫

**10-11** 絵本の読み聞かせ ～読み方の違いが内容理解におよぼす影響～

社会福祉法人愛育会 のぞみ保育園 入江 浩子

**10-12** ダイナミックアセスメントから捉えた学習言語の習得と躓きⅠ：  
就学頃の定型発達児の様相および年長児の事例

大阪芸術大学 田中裕美子

**10-13** ダイナミックアセスメントから捉えた学習言語の習得と躓きⅡ：  
小2の事例

DIVERSE・ダイバース 松浦 千春

**聴覚障害** 13:40～14:30

**第2会場**(講義棟4階 4601教室)

座長：國末 和也(広島国際大学 総合リハビリテーション学部)

**10-14** 包括的領域別読み能力検査による学齢聴覚障害児の日本語読み能力の現状  
第二報

愛媛大学 教育学部 加藤 哲則

**10-15** 包括的領域別読み能力検査による学齢聴覚障害児の日本語読み能力の現状  
第三報 ―読解モデルの構築―

東北大学大学院 教育学研究科 川崎 聡大

**10-16** 聴覚障害者の日本語単語アクセントの知覚における  
ピッチレンジと発話持続時間の影響

上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 相川 真澄

**10-17** 聴覚障害児の話者の男女識別能力に関する検討  
— 健聴児と補聴器装用児の比較 —

国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科 佐藤 友貴

**10-18** 軟骨伝導補聴器装用による学童期の補聴効果の検討

川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科 川上 紀子

## 第2日目 5月12日回

自閉症スペクトラム障害 9:10～10:10

第1会場(講義棟2階 2601教室)

座長：藤野 博(国立大学法人東京学芸大学 特別支援教育)

**20-01** ASD 児における LC スケールと WISC- IV の関連  
～就学前児を対象として～

一般財団法人 倉敷成人病センター 高山 充樹

**20-02** ASD 児における LC スケールと WISC- IV の関連  
～2つの検査間に差のある児の言語特徴～

一般財団法人 倉敷成人病センター リハビリテーション科 秋山 洋子

**20-03** 会話の場と会話の流れ  
—自閉症の子の会話を指導するための理論的考察2

NPO 法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク  
ことばの相談室ひなたぼっこ 山本 正志

**20-04** 自閉スペクトラム症に cluttering 様発話を呈した  
—症例に対する Rap 調音読を用いた発話速度訓練

重井医学研究所附属病院 友野 祐喜

**20-05** 自閉スペクトラム症児の母親支援の検討 —構造化を利用して—

医療法人 こまごえ医院 村松 幸代

**20-06** マカトンシンボルを用いた算数指導

社会福祉法人すずらの会 岡本 朗子

言語発達 I 9:10～9:40

第2会場(講義棟4階 4601教室)

座長：内山 千鶴子(目白大学 保健医療学部)

**20-07** 二語文の多様性による早期文法発達評価  
～文研研究から臨床における試行的実践～

埼玉県立小児医療センター 遠藤 俊介

**20-08** 日本語を母語とする典型発達児3名の平均発話長の推移

川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科 感覚矯正学専攻 山崎 志穂

**20-09** ダウン症児の構文理解の発達と言語性短期記憶の関係

東京通信病院 石上 志保

- 20-10** 統合的フォニックスの指導効果の日本語・英語課題での比較検証  
新潟大学 教育学部 入山満恵子
- 20-11** 数的イメージの形成が弱い算数障害の1例  
目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科 内山千鶴子
- 20-12** 就学後に構音障害を主訴として来院した2症例の構音障害の特徴について  
学校法人 川崎学園 川崎医科大学附属病院 小野亜里沙
- 20-13** 音声言語と文字言語に乖離を認めた脳性麻痺児に対して  
早期文字導入を試みた一例  
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 松尾 基史

- 20-14** 聞き返し訓練〈確認の技〉の就労における役割  
なやクリニック 蜂谷 敦子
- 20-15** 右半球損傷患者における談話特徴と認知機能の関連性を検討した1症例  
川崎医科大学附属病院 桐谷 光
- 20-16** 失語症者のグループ活動におけるコミュニケーションの困難と  
その解決について  
上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 加藤みどり
- 20-17** 加齢およびアルツハイマー病が意味知識におよぼす影響：  
feature listing による生物・人工物領域間の比較  
県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科 津田 哲也

座長：中村 光(岡山県立大学 保健福祉学部)

**20-18** タブレット用認知リハ課題アプリケーションソフトの開発  
—課題ごとの成績における尺度化の検討—

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 戸田 淳氏

**20-19** 失語症者の階層性アプリの操作能力：ハード面からの分析

県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科 白川由莉奈

**20-20** 血管性認知症とアウェアネス障害により自宅退院に難渋した症例

川崎医科大学総合医療センター リハビリテーションセンター 村上 琴美

**20-21** PQRST 法による内的記憶方略を活用した健忘症の症例

社会医療法人宏潤会 大同病院 リハビリテーション科 堀池 正太

**構音・音声・摂食嚥下障害** 14:30～15:10

第2会場(講義棟4階 4601教室)

座長：矢野 実郎(川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部)

**20-22** 代替コミュニケーション導入に難渋した重度運障害性構音障害症例を  
経験して

川崎医科大学総合医療センター リハビリテーションセンター 中上 美帆

**20-23** 侵襲的人工呼吸器装着下にて、様々な音声代替手段を使用した一症例

国立病院機構 大牟田病院 リハビリテーション科 武末史知子

**20-24** 進行性疾患で侵襲的人工呼吸器管理となった患者へのカニューレの  
サイドラインを用いた送気発声の取り組み

国立病院機構 大牟田病院 リハビリテーション科 酒井 光明

**20-25** 重度の摂食嚥下障害・音声障害を呈した若年ワレンベルグ症候群の  
一症例に対する社会復帰支援の取り組み

千里リハビリテーション病院 熊倉 勇美

# 一般演題(ポスター発表)

第1日目 5月11日(土)

ポスター会場(講義棟3階 3602教室)

失語症・コミュニケーション障害 12:00～12:30(質疑応答)

---

**1P-01** 語用論的能力が保たれた重度失語症例

川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科 植谷 利英

**1P-02** 重度失語症者の検査上での活動と生活場面での活動の差についての検討  
～CADLとFQの比較を通して～

熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 畑添 涼

**1P-03** 失語症における擬音語・擬態語の理解について

愛知淑徳大学 健康医療科学部 澤田 果歩

**1P-04** 一流暢性失語症者における名詞と動詞の呼称障害について  
—誤りの特徴に着目して—

愛知淑徳大学 健康医療科学部 奥野 紘那

**1P-05** 意味性認知症者の会話について  
—会話中に生じた問題の修復に着目して—

愛知淑徳大学 健康医療科学部 医療貢献学科 言語聴覚学専攻 柴田 沙樹

**1P-06** 意思表出困難を伴った高次脳機能障害例に対して行った  
約3年のコミュニケーション支援の経過

医療法人光洋会 赤間病院 横山 典子

吃音・音声障害 12:00～12:30(質疑応答)

---

**1P-07** ICFに基づく多言語環境下における吃音のある児童の評価

首都大学東京大学院 人文科学研究科 言語科学教室 矢田 康人

**1P-08** 音声符号化の処理は学齢期の吃音の生起に關与するか  
—音節頻度の影響に基づく検討—

福生市立福生第七小学校 高橋 三郎

**1P-09** 吃音者の話しやすさに影響を与える対話者の態度  
—半構造化面接を通して—  
聖母療育園 リハビリ科 正木 啓太

**1P-10** 心因性失声症の改善に寄与する要因の検討  
北里大学 医療衛生学部 村上 健

自閉症スペクトラム障害 12:30～13:00(質疑応答)

---

**1P-11** 冗談の積み上げ —自閉症の子とゲームでコミュニケーション— その8  
NPO 法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク  
ことばの相談室ひなたぼっこ 山本 正志

**1P-12** 特別支援学校における教員との連携 ～ICTの活用を通して～  
神奈川県立みどり養護学校 栗島 会理

**1P-13** 自閉症スペクトラム障害の理解にメディア視聴が与える影響  
国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 岩崎 淳也

**1P-14** 自閉症スペクトラム障害児の困り感への支援に向けて  
—作文作成過程の分析から困り感を探る—  
帝京平成大学 健康メディカル学部 言語聴覚学科 野村 直子

**1P-15** 自閉スペクトラム症児とその家族への早期の親子支援プログラム  
—プログラムに参加した母親の言葉かけの変化—  
NPO 法人 SUN-Tatebayashi 溝江 唯

**1P-16** テーブルトーク・ロールプレイングゲームにおける  
自閉スペクトラム症児の会話の促進とゲームマスターの役割  
東京学芸大学 教育学部 加藤 浩平

**1P-17** 言語発達障害児の談話の特徴と子どもとの会話に対する親の鋭敏性  
熊本保健科学大学 井崎 基博

**1P-18** 「ことばのつかいかたテスト」は自閉症スペクトラム障害の語用障害を  
CCC-2とは異なる視点から同定する  
大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 金沢校 水谷 柳子

## 第2日目 5月12日回

ポスター会場(講義棟3階 3602教室)

### 聴覚障害 12:00～12:30(質疑応答)

---

- 2P-01** 言語聴覚士教育における模擬難聴システムを使用した演習の効果  
県立広島大学 コミュニケーション障害学科 長谷川 純
- 2P-02** 聴覚障害児の関係節構文における理解力と音読時の韻律情報の活用能力との関係に関する検討  
東京学芸大学大学院連合学校 教育学研究科 喜屋武 陸
- 2P-03** ASD を合併する聴覚障害児の談話の特徴：ASD 児との比較を通して  
東京学芸大学大学院 岩田能理子
- 2P-04** 聴覚障害児・者におけるコミュニケーションブレイクダウンに関する用語と判定基準及び修復方略の文献的検討  
筑波大学大学院 人間総合科学研究科 李 彩環
- 2P-05** 聞き取り困難を主訴とする成人例の要因と心理的問題  
国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科 小渕 千絵

### 人工内耳 12:00～12:30(質疑応答)

---

- 2P-06** 人工内耳装用者の音楽の聴取経験に関する定性的検討  
日本社会事業大学大学院 益子 徹
- 2P-07** 青年期にある人工内耳装用者の自己認識  
— 幼児期に人工内耳を選択した装用者へのインタビューから —  
在宅ケアサポートみちくさ きこえとことばの相談室 石田 彩
- 2P-08** 青年期にある人工内耳装用者と非装用者におけるワークキャリア観の比較  
小田原短期大学 杉中 拓央

**2P-09** 超早産・超低出生体重児1例の言語発達の変化

重井医学研究所附属病院 新 藍

**2P-10** 英語学習に困難を示す中高生に対する認知特性に応じた  
英単語指導法の効果

北里大学大学院 医療系研究科 上岡 清乃

**2P-11** 知的障害特別支援学校高等部に在籍する軽度の発達障害生徒への  
支援内容を考察する

兵庫教育大学 大学院 学校教育研究科 西村 英晃

**2P-12** 発達性ディスレクシアの1症例  
―何を優先して指導すべきか―

東京医療学院大学 青木さつき

**2P-13** ABA(応用行動分析)とJIS絵記号を使用したPECS訓練により  
「あげ・もらい行動」までを獲得したASDの一例

児童発達支援事業所 マママとまママ 林 文博

**2P-14** 選択性緘黙児への文字認識アプリを活用した絵日記指導による  
コミュニケーション支援の試み

茨城県つくば市立竹園西小学校 奥沢 忍

**2P-15** コミュニケーションサポートブックで施設退所後の生活を  
支援する取り組み

大阪整肢学院 リハビリテーション部 富田朝太郎

**2P-16** ことばの発達と関係する食事内容についての、集団内での検討

ことばの相談室 のえ 桑原 直子

# 会長講演

## 言語障害児への早期発見早期介入と チームアプローチの重要性

小坂 美鶴

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

5月11日(土) 9:30～10:30

第1会場(講義棟2階 2601教室)



# 言語障害児への早期発見早期介入と チームアプローチの重要性

小坂 美鶴

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

言語は人間であれば生得的に獲得できるものである。しかし、一方で文化や様々な環境によってその発達が阻害され獲得できない場合もある。また、言語発達においては始語や語彙の増加、語連鎖などにおいて一般的な発達の里程碑がある一方で、ある程度の個人差が大きいことも知られている。言語発達遅滞児の追跡研究では2歳までの言語発達の遅れの発音率が約13%であり、そのうちの25%が表出面での遅れが継続するという報告がある(田中, 2018)。さらに、3歳児の言語障害のうち39%は5歳児にも残存し、さらにそのうち41%は7歳児まで継続する言語の問題をもって就学するという報告もある(Silva, 1987)。訓練を要するほどではない言語発達の遅れをもつ子どもの長期経過において読みの問題や学業成績の低下を示した症例において本来的な言語習得の弱さを示唆している(Rescorla, 2009)。それゆえ、言語発達の遅れに関しては早期発見そして経過観察を含めた早期介入が必要である。早期発見については保育園や幼稚園での行動や言語発達を発見しているものの、保護者への伝達の難しさがあり、教育的介入には至らない場合が多い。平成24年の児童福祉法改正において地域での児童発達支援が気軽に受けられるようになってきている。岡山県内の児童発達支援のサービス提供をしている2施設に通う子どもの保護者へのアンケート調査を行ったところ、利用している子どもの多くは言語発達やコミュニケーション、行動の問題を抱えており、言語聴覚士(以下ST)が専門としている障害であり、保護者はSTに対して期待していることが示された(小坂ほか, 2018)。さらに地域での放課後等デイサービス事業も同時に始まっており、ここでの就学後の継続した支援ができる環境にもあるが、実態が伴っていない場合が多いようである。

これまで言語発達の遅れに対して医療現場でのアプローチが主体であったが、早期発見後、様々な場所でのチームアプローチが初期言語発達の遅れのある児への年齢や学年ごとに変わっていく問題に対して継続した支援が可能となっていくと考えられる。また、初期言語発達における個人差の実態とその後の様々な遅れのある児の各年齢段階での共通した問題や差異、そしてその予後など長期経過についての研究を進めていく必要がある。さらなる問題として遅れの発見のための日本語のツールの開発なども考えていかなければならない。本講演では特異的言語発達障害児が就学後に教科学習の問題で躓いた症例について学習可能性と長期経過およびフォローアップの必要性について言及する。

A blank sheet of lined paper with two columns of horizontal dashed lines for writing.

# 一 般 演 題

(口頭発表)

10

第1日目 5月11日(土)

第1会場(講義棟2階 2601教室)

第2会場(講義棟4階 4601教室)



## 10-01

### AACを導入してコミュニケーションが可能となった先天性多発性関節拘縮症の幼児について

—訪問による実践—

木下 亜紀

あいりす訪問看護ステーション

【はじめに】先天性多発性関節拘縮症は多関節拘縮をきたす症候群であり、病態は多様である(佐藤ら, 2000)。運動面の機能向上が重点課題であることから、リハビリテーションは理学療法や作業療法が中心であり(榎勢, 2006)、言語聴覚療法に関する実践報告は筆者の知る限りない。今回、訪問リハビリテーションによる言語訓練において、複数の AAC (Augmentative and Alternative Communication ; 拡大代替コミュニケーション) 導入によって、言語表出を中心にコミュニケーション能力が向上した症例を経験したので報告する。

【対象】4歳女児。診断名は先天性多発性関節拘縮症。2歳5ヶ月時の新版 K 式発達検査 2001 では、認知・適応 DA1 : 9、DQ70、言語・社会 DA1 : 11、DQ80。2歳7ヶ月時の〈S-S 法〉言語発達遅滞検査では、B 群(音声発信困難)段階 4-1 の 2 語連鎖で言語理解は 2 歳 1 ヶ月レベル。言語表出は身ぶり言語や有意味語はなく、要求の指差しや応答的な発声のみで 0 歳 10 ヶ月レベル。

【方法】言語理解に応じた言語表出手段の獲得を目的に、①要求語彙を中心に、上肢の可動域に配慮した身ぶりや手話によるサイン言語での表出を促す

②音声言語による 3 語連鎖理解を促す

③タブレットによる VOCA の導入

の 3 点を訪問による言語訓練にて月 1 回(1 回 50 分)、約 1 年間実施した。また、訓練内容を家庭でも実施してもらうため、家族に対して具体的に助言を行った。

【結果・考察】約 1 年間の訓練によって、身ぶりやサイン言語による 3 語連鎖の表出が可能となり、コミュニケーション機能は要求だけでなく応答や報告にも拡大した。当日の発表では、再評価の結果を提示し、考察を行う。

## 10-02

### 当院 ST 小児部門の拡大に向けた取り組み ～地域の現状をふまえて～

渡部 梨沙子

医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院

発達障害、機能性構音障害、吃音等、言語聴覚士(以下 ST)の支援を必要とする子どもの数は増加傾向にある。しかし、その受け皿となる施設・病院は極めて少なく、適切な支援が行き届かないことも稀ではない。横浜市 0～15 歳人口 490,219 人(2018 年 1 月 1 日現在)に対して、ST が在籍し小児を対象とする施設・病院数は 14 施設である。例えば発達性吃音の発症率 5% で考えると 1 施設 1,751 人が対象となる。現状ではこれほどの受け入れは困難な施設が多く、支援を受けるべき児に適切な介入ができていないと考えられる。また当院のある横浜市旭区の ST 小児受け入れ施設は当院除いて 1 施設である。

そこで当院は平成 30 年度より ST 小児部門の拡大を行うために、現在小児の臨床を行っており、受け入れ患児数の多い神奈川県内の 3 病院の見学・聴取を行った。介入待ちに伴う介入の遅れや訓練頻度の不足、他機関との連携不足が現場での課題と考えた。加えて、診断名が付き療育での受け入れが可能な自閉症やダウン症などは基本的には受け入れないという回答があり、療育センターと病院の特性の違いを考慮し対象年齢や疾患の設定を行う必要があると考えた。

上記より当院では学齢児や発達境界域の児など療育センターで受け入れ困難な児を積極的に受け入れることとした。これに伴い、対象疾患には学習障害や読み書き障害を加えた。また当院の受け入れ人数を増加することで、早期介入と適切な頻度・期間での訓練介入を行うことができると考え、小児担当 ST 増加のための教育・フォロー体制の構築、小児科医からの指示系統の統一、初回面談の実施方法の検討などを行った。

現状では機能性構音障害の小学生を中心に患児数が増加している。今後の課題は当院患児数増加や ST のスキルアップ・人材確保が挙げられる。さらなる展望としては県内全施設を対象に聴取を行い、療育センターが求める他機関の在り方や他施設連携の方法を検討したい。

## 後援・展示・書籍販売・協賛金 一覧

### 後 援

---

岡山県

倉敷市

岡山県教育委員会

倉敷市教育委員会

山陽新聞社

(一社)岡山県理学療法士会

(一社)岡山県作業療法士会

(一社)岡山県言語聴覚士会

### 展 示

---

(五十音順)

株式会社 インサイト

東洋羽毛中四国販売株式会社

株式会社 VIP グローバル

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社

### 書籍販売

---

株式会社 エスコアール

株式会社 学苑社

### 協賛金

---

東神実業株式会社 倉敷営業所

第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会  
準備委員

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

大会長 小坂 美鶴

事務局長 川上 紀子

実行委員 種村 純

三村 邦子

太田 信子

池野 雅裕

矢野 実郎

時田 春樹

戸田 淳氏

中田 薫

第45回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会  
予稿集

---

2019年4月3日発行

発行者：第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 会長  
小坂 美鶴

事務局：〒701-0193 岡山県倉敷市松島288  
川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科  
事務局長：川上 紀子  
TEL：086-462-1111（代表） FAX：086-464-1109（代表）  
E-mail：45th.meeting.of.jacd@gmail.com

出版：株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025  
<https://secand.jp/>

第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会  
事務局

---

〒701-0193 岡山県倉敷市松島288

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学科 内

E-mail: 45th.meeting.of.jacd@gmail.com